鑛業被害耕作地の

救濟陳情書を知事に

提出した兩川流域七ケ町村長と其の主旨

鑛業地に於ける耕作地の被害救濟に關しては屢〻状況を具して陳情されて居るが之が實現を見ない中に益〻被害程度擴大しつゝあり特に遠賀川の支流なる西川流域に於ける鑛毒水の被害の如きは年を追うて激甚を極むるので昨三十日遠賀郡島門、浅木、底井野、鞍手郡古月、西川、劍、楠木の七ケ町村長連署の上縣知事に宛て救濟に關する陳情書を提出した

同地方の炭礦開發は明治十四五年からの事で始めは炭坑數も少く被害程度も輕微であつた爲め農家でも静觀して居たが同四十年に至り西川鐵道敷設以來俄に盛大を極め爲めに惡水の排出量激增し殊に大戰勃發以來一層好況を呈したに拘らず惡水排除の水路全くなく爲めに西川流域一千二百町歩の田畑は勿論灌漑水路の末に至る迄其害を蒙らざるなく良田も濕田に化し著しく生産額を減少した上是迄肥料さして浚渫して居た水路の底土は用を爲さぬ事となつた爲め水路埋没し雜草繁茂し魚介死滅の慘状を呈し勞力及肥料を増加し臨時費をも要し乍ら收穫は減じ二毛作の出來ぬ樣になつた面積も少からず其損害を見積れば一町村の被害は少くとも一ケ年十萬圓を下るまいといふ見込である之が爲め轉職者も續出する有樣であるから今日にして對應策を講じなければ救濟すべからざる結果を來すであらうといふので縣農林課で極めて重大視されて居る

小作人の苦しい生活を見て

地主の子たる苦惱から免る

主義と境遇との撞着、理想と現實との齟齬に苦しんで居た伊藤九大助教授

愈々土地を小作人に讓渡す

前福岡縣會議員伊藤爲太郎氏は福岡縣田川郡安眞木村の豪家であるが今回自己の所有地に屬する十數町歩の

土地

を全部開放して小作人に讓り渡す事にした讓渡の條件方法などに就ては目下考究中であるが氏が此の擧に出づるに至つた動機に就ては現九大農學部農政學助教授農學士伊藤兆司氏の熱心なる懇願が與かつて力あるものである。兆司氏は爲太郎氏の長男で早くより社會問題に興味を持ち東京帝大農學部横井時敬博士に付いて農政學經濟學を

研究

し卒業後郷里田川郡に歸り實地に各種の小作問題勞働爭議を見るにつけ益〻現在の社會制度の誤れる事を痛感し自分が地主の子として安逸なる生活を送つてゐる事が此の上もない苦痛な事に感ぜられた。大學に聘せられて學生の前に農政學を講義する時又講演會などの席上で社會問題に付いて

講演

を行ふ時其處に最も大いなる矛盾を感じて思ふ樣な事も言へない事もあつた主義と境遇との撞着、理想と現實との齟齬は氏の内部生活に堪え難い苦惱を齎した。此の苦惱がやがて氏をして地主の子たる事から免れしむ可く父爲太郎氏を動かしたものである

大學卒業の時の言葉

から遂に其の實現が見られるに至る迄

伊藤助教授は語る

地主の子たる苦惱さ夫れを免れる事の計畫に付いて伊藤助教授は記者に斯う語つた

何が苦しいと言つて自分の生命とする主義に進む事を自分の境遇に妨害される程苦しいものはあるまい、現在の社會を眺めて見ると其處にはあらゆる不自然不合理が跋扈してゐる、之れを改善して最も合理的な社會たらしむる事は我等若い青年の義務である、而して最も合理的な社會とは小作人でも勞働者でも安心して自分の天職に勵む事が出來る社會である、小地主の片割れに生れた私が小作人の苦しい生活の狀態を眺める事は私自身

福岡縣の勞働界

解雇超過僅少

福岡縣に於ける工場法適用工場の八月中職工移動状況は虎疫發生の爲め調査延引中の處廿八日完成したが解雇職工二千六十八人に對し雇入千七百十六人あり差引三百五十餘人の解雇超過となり特に目立つた移動を現はしたと云ふ工場もなく概して前月來の沈滯を續けて居ると云はれるが工場種別の數字は左の如くである

	解雇	雇入	工場現數	職工現數
染織	六六四	四八〇	一六八	一二二七〇
機器	四〇七	三九二	一六三	七四三三
化學	三五八	三五四	一二九	九二七七
飲食	九二	二五三	一〇八	三三五五
雜工	二四二	二〇三	四〇	三九八〇
特別	七〇	七五	一〇	一七一五
合計	二〇六八	一七一六	六一八	三五八七〇

尚八月末現在の工場數は六百十八でその職工數三萬五千八百七十人差引四工場を增し職工三百五十二人を減じて居る

福岡署管鑛夫移動

福岡鑛務署管内鑛山中重要及準重要鑛山百四十二鑛に於ける七月末現在の鑛夫數は男一三二、九一三人女五七、四九五人計一九〇、四〇七人を算し同月中雇入れたる鑛夫數は男一三、〇一〇人女五、二〇五人計一八、二一五人にして同月中解雇せる鑛夫數は男一二、九三五人女五、五二一人計一八、四五六人である即ち男七五人の雇入超過女三一六人の解雇超過となり差引二四一人の解雇超過となつてゐる之を前月分解雇超過數男九九五人女五五一人計一、五四六人に比すれば計に於て著しく解雇超過數が減じてゐる殊に七月中は山口縣沖の山炭坑が浸水の爲め解雇せる鑛夫五一四名に及べる爲め之等特殊の事情に因る者を除けば十月中は其實質に於て雇入れ超過を示すべきものであると

炭坑稼働者動靜

福岡縣直方署管内に於ける九月末現在炭坑稼動者數は二十五坑所にて男一萬五千百七十八名女八千五百九名合計二萬三千六百八十七人にてこれを八月末現在數に對比すると男女を通じて千八百十六名の減員となつて居る之れ畢竟同郡勝野村赤地炭坑を初め上日寺の谷井之浦の各坑が閉鎖した結果に因るもので一般では炭況擡頭預提手續等の爲め盛んに増員を行つて居る状態である尚同署管内工場稼動者數は二十二工場(工場法適用工場)にて男二百六十四名女二十二名合計二百八十六名であると

農村の鑛業被害は

縣當局も知らぬ顔

は出來ぬだらう

耕作不能となつた所も多い

福永縣農會技師は遠賀鞍手兩郡の炭坑地の耕地陥没の状況を視察して歸つたが其の談に曰く

筑豐諸郡の炭坑地方に於ける土地の陥没は益〻激しく復舊工事の完成してゐるのは僅に鐵道沿線のみで其の他は殆ど荒廢に委せてある有樣である今度は主として鞍手郡の新入村遠賀郡の底井野の兩村に就て視察したが底井野村では三十町歩新入村では六十町歩の耕地が用水路の切斷の爲めに全然收穫皆無になつてゐる。新入村は全體の耕地が百町歩足らずの處に六十町歩の不收穫地が出來たので其の慘狀は全く見るも氣の毒な有樣である農民はまだ何等不穏の狀況は見られぬが早晩免租運動など起す樣になるのは明かである其の他用水設備不完全の爲めに兩村で十町歩ばかり遠賀郡では五十町歩ばかり全然收穫の見込が立たない處もある是等は縣當局としても充分善後策を考究する必要があるだらう